



被災後、高台に造成された塚ノ丸団地で「れすとらんやまぐち」を始めた山口夫妻(球磨村)



乗船客を迎える準備を行う球磨川くだり船頭 (HASSENBA)

「おかえり」の日常と、 「ようこそ」の活気を。



今年の全線運行再開に向けて整備中のくま川鉄道(人吉温泉駅)

令和2年7月豪雨から6年

球磨川流域に甚大な被害をもたらした令和2年7月豪雨から今日で6年となります。犠牲となられた方々の御遺族の皆様にお悔やみ申し上げるとともに、被害を受けられた全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

国、市町村、災害ボランティアや地域住民の皆様御尽力により、住まい・コミュニティの再建や生活インフラの復旧は着実に進んできました。一方、住み慣れた場所での生活の先行きに不安を感じておられる方、通院や買い物など日常生活に不便な思いをされている方がいらつやいます。また、これまで何度も球磨川流域へ足を運ぶ中で、人口減少による将来への大きな不安や地域の存続に対する強い危機感などについて、ご意見を直接いただいています。

現在、熊本県では、愛する地域で誰もが安全・安心に住み続けられ、若者が残り、集う、持続可能な地域の実現に向けて、「新時代共創復興プラン」に基づいた球磨川流域の創造的復興に取り組んでいます。

地域の日常を支え続けてきたくま川鉄道の全線運行再開を間近に控え、球磨川流域は更に力強く前進しています。その歩みを後押しするため、豪雨災害の記憶と教訓をしっかりと未来へつないでいくとともに、現場の声を大切にしながら、創造的復興に向けた取組みをさらに加速させたいと考えています。

地域を愛し続けてきた人々が、手と手を取り合つて元の日常を暮らす。地域を守り続けてきた人々が、訪れる全ての人々を笑顔で迎える。そのような、「おかえり」の安心がいつもそばにあり、「ようこそ」の温かい心遣いが行き交う、活気と魅力あふれる地域を共に創って参ります。

令和八年七月四日

熊本県知事 木村 敬



「新時代共創復興プラン」
はこちら

